

慶應言語学コロキウム

生成文法と言語進化

講師：藤田耕司氏（京都大学教授）

日時：2015年6月27日（土）13:00-18:30

会場：慶應義塾大学三田キャンパス北館3階大会議室
参加費無料 申込不要

現生人類固有の生物学的形質である言語能力の起源・進化は長らく答えの出せない mystery だとされてきたが、近年の生物言語学・進化言語学の進展により、ようやく答えの出せる problem に転化しつつある。これには生物学をはじめとする多数の関連領域の協働に加え、生成文法による理論研究が進化的妥当性・生物学的妥当性に迫り得るレベルまで洗練されてきたことが大きく貢献している。

このトークでは、生成文法のこれまでの理論展開を human biology の実践という観点から再評価し、特にミニマリズムにおける統語演算理論と言語進化研究との関わりを中心にしてその現状と展望を述べる。単なる理論言語学を超えて生物言語学・進化言語学の中核領域としての生成文法を正しく理解するには、進化生物学や人類学、動物行動学等のより包括的な文脈の中でその研究経緯を捉える必要がある。またそれにより、従来は相容れないと考えられてきた生成文法と言語進化の創発的シナリオとダーウィン進化的シナリオを架橋して、統合的な言語進化モデルを構築することが可能になる。

言語能力の種固有性や領域固有性を理由に、生成文法が人間言語だけを研究の対象にしていればよい時代はすでに終わっていることを理解してもらいたいと考えている。

主催：慶應義塾大学言語文化研究所
協力：慶應義塾大学次世代研究プロジェクト B

〈お問い合わせ先〉

〒108-8345 港区三田 2-15-45 慶應義塾大学言語文化研究所
電話：03-5427-1595（事務室直通）メール：genbu@icl.keio.ac.jp
<http://www.icl.keio.ac.jp>